

青少年相談員60周年記念事業「折鶴」 趣意書 『つなげよう笑顔と心 ～ 鶴に想いをのせて ～』

千葉県青少年相談員は、青少年の健全育成を推進するため、昭和38年から千葉県知事並びに各市町村長から委嘱を受け、県内全市町村で様々な活動をしています。

発足60周年を迎えるにあたり、千葉県青少年相談員連絡協議会では、令和3年度から準備委員会を設置し、記念事業について検討を重ね、下記の通り3つのテーマで、事業を企画しました。全市町村青少年相談員連絡協議会の御理解と御協力を得ながら、県内全ての子ども達の笑顔をつなげ、子ども達の想いがこもった事業にしたいと考えます。

記

1 「折鶴」に込める願い（なぜ「折鶴」なのか？）

生活環境の変化は、子ども達の心や身体行動面のストレス反応を生じさせる要因となっています。感染症対策により対面で触れ合い交流することが難しい中、1日でも早くコロナが収束し、子ども達にたくさんの笑顔が戻るよう願うばかりです。

そこで、日本の伝統的な遊びである「折紙」で鶴を折り、「折鶴」をつなぎ連ねて、想いや祈り、願いをつなぐ「千羽鶴」という風習から、子ども達の想いをつなげられたらと考えました。子ども達は、この日本独自の美しい文化に触れるとともに、自分の将来や未来に向けての夢や想い、願いなどを抱く機会にして欲しいと思います。

2 「子ども達の想い」をつなぐ

子ども達は、長引くコロナ禍で、家族・友人・社会とつながる事の大切さを身をもって体験しています。子ども達の想いや夢、願いを込めて折られた鶴を、“親でもない、学校の先生でもない、子ども達に寄り添う地域の大人”である青少年相談員が、一羽ずつ糸に通してつなげます。これにより、子ども達の想いをつなげると共に、私たち青少年相談員の活動意欲向上にもつながります。

3 「平和」を願う

諸説ありますが、「折鶴」は、平和の象徴と言われております。いま世界を見渡すと、戦争や紛争はもとより、人身売買・貧困・虐待など、子ども達は様々な困難に直面しています。子ども達に寄り添う青少年相談員として、この事業を通して、広く世界中の子ども達が平和で幸せに暮らすことができるよう想いを届けたいと思います。

60周年を迎えた千葉県青少年相談員は、これからも県内全ての青少年が健全に健やかに成長し、様々な体験活動に参加できる機会の創出に貢献できるよう活動いたします。本事業の成功は、青少年相談員が次の世代へ受け継がれることにもつながると思います。本趣旨を御理解の上、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年12月13日 千葉県青少年相談員 連絡協議会

会 長 宮崎 雄一

千葉県青少年相談員 60周年記念事業

実行委員長 原 靖明